

基本研修演習手順マニュアル 新旧対照表

新 (案)		旧		
演習手順マニュアル		演習手順マニュアル		
<p><u>胃ろう又は腸ろうによる経管栄養（半固形）演習手順マニュアル（新設）</u></p> <p><u>※胃ろうの対象者に、半固形栄養剤を 300cc、5～15 分かけてその場で注入することを想定</u></p>				
実施 手順	評価項目	評価の視点		
STEP 3 (準備)	1	<u>医師の指示等の確認を行う（注入物、注入量、注入時間、留意点等）</u>	<u>（演習）指示書に記載された「注入物・注入量・注入時間・留意点」を読み上げる</u>	
	2	<u>手洗いをを行う（流水・方法を守る）</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・アルコール製剤により手指を清潔にする <u>（手洗い手順通りにできていること）</u> 	
	3	<u>必要な物品を準備する（必要物品、使用物品の劣化・汚染）</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要部品を確認する <u>（演習）必要物品を読み上げながら用意する</u> ・使用物品の状況を観察し、劣化、損傷、汚染状況がないか確認する <u>（演習）「劣化、損傷、汚染状況ありません」と報告する</u> <u>（実地においてボタン式の場合、接続用チューブも用意する）</u> 	
	4	<u>指示された栄養剤の種類・量・時間を確認する（氏名、栄養剤の内容・量・有効期限、注入開始時間、注入時間の確認）</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・氏名・経管栄養剤の内容と量・有効期限・<u>注入開始時間・注入時間を確認する</u> <u>（演習）対象者の氏名、内容と量、有効期限、注入開始時間、注入時間を読み上げる</u> 	
	5	<u>経管栄養の注入準備を行う（栄養剤の本人確認、</u>		

		<p><u>る</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <u>・チューブ接続部位からの漏れはないか</u> <u>・表情、下痢や嘔吐、異常な発汗、顔面紅潮、めまい、息切れ等はないか</u> <p><u>→症状があれば注入を止めて報告する。</u></p>	<p><u>接続部位からの漏れ、接続部の外れ、表情の変化など）の観察を行う</u></p> <p><u>（演習）「接続部位からの漏れありません、全身状態問題ありません」と声出し確認する</u></p>
	12	<p><u>注入が終わったら、チューブ内洗浄程度の白湯をシリンジで流す（対象者の状態を観察、体位の保持）</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <u>・洗浄のための白湯の量は決められた量か</u> <u>・胃ろうがチューブ型の場合、栓をし、ボタン型の場合、栓用接続チューブをはずし、栓をする</u>
	13	<p><u>クレンメを閉め、経管栄養チューブの接続を外し、半坐位の状態を保つ</u></p> <p><u>（クレンメを確実に閉め、接続部を外す際はチューブを抜去しないこと）</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <u>・適切な体位を維持する</u> <p><u>（演習）体位確認後、「体位の維持できています」と声出し確認する</u></p>
	14	<p><u>注入後、対象者の状態について報告する（腹部膨満感、嘔気嘔吐、腹痛、呼吸困難等の報告）</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <u>・全身状態を報告する</u> <p><u>（演習）対象者の状態を観察し、気分不快、腹部ぼう満感、おう気・おう吐、呼吸困難などがないか対象者に確認する</u></p>
STEP 5 (報告)	<p><u>しばらく時間が経過したことを想定 実地研修の場合は、この間に片付け等必要なケアを行う</u></p>		
	15	<p><u>体位交換が必要な対象者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <u>・観察をして異常が無ければ、体位交換が必要な対象者に対しては、体位変換を再開する</u> <p><u>（演習）対象者に吐き気の有無、体位について確認する</u></p>
	16	<p><u>ヒヤリハット・アクシデントの報告をする</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> <u>・手順のミスや対象者のいつもと違った変化について報告する</u>

		<u>(手順のミスや対象者のいつもと違った状態について正確に報告)</u>	<u>(演習) ヒヤリハットなかった場合は、「ヒヤリハットありません」と報告する</u> <u>ただし、演習であってもヒヤリハットがあった場合は、そのことについて報告すること</u>
STEP 6 (片付け)	17	<u>環境を汚染させないように使用物品を速やかに後片付けする</u> <u>(使用物品は決められた方法で洗浄・消毒を行う)</u>	<u>・使用物品は決められた方法で洗浄・消毒をする</u> <u>(演習) 元にあった場所に元どおりに戻す</u> <u>(実地) 実際に使用物品の洗浄を行う</u>
STEP 7 (記録)	18	<u>実施記録を記載する</u> <u>(記載事項の把握、記載漏れなし、適切な内容の記録)</u>	<u>・記載もれはなく、内容の記載を行う</u> <u>(演習) 実施状況を実際に記録する(待ち時間等を利用)</u>

胃ろう又は腸ろうによる経管栄養（滴下）演習手順マニュアル

実施手順	評価項目	評価の視点
(略)		
STEP 4 (実施)	9	<p>経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する (チューブのねじれ・折れ、固定が外れていないか確認)</p> <p><u>・胃ろう又は腸ろうから出ている経管栄養チューブにねじれ・折れがないか、チューブの接続状況、固定が外れていないかを確認する</u> (演習)「挿入部の皮膚の状態、呼吸・腹部の状態問題ありません、チューブのねじれ・折れありません、接続ができました」と声出し確認する</p>
	(略)	
STEP 5 (報告)	19	<p>体位交換が必要な対象者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する</p> <p><u>・観察をして異常がなければ、体位交換が必要な対象者に対しては、体位変換を再開する</u> (演習)対象者に吐き気の有無、体位について確認する</p>
	(略)	

胃ろう又は腸ろうによる経管栄養（滴下）演習手順マニュアル

実施手順	評価項目	評価の視点
(略)		
STEP 5 (実施)	9	<p>経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する (チューブのねじれ・折れ、固定が外れていないか確認)</p> <p>・経管栄養チューブを接続状況、ねじれたり折れ、固定が外れていないかを確認する (演習)「挿入部の皮膚の状態、呼吸・腹部の状態問題ありません、チューブのねじれ・折れありません、接続ができました」と声出し確認する</p>
	(略)	
STEP 6 (報告)	19	<p>体位交換が必要な対象者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する</p> <p>・体位交換が必要な対象者に対しては、異常がなければ体位変換を再開する (演習)対象者に吐き気の有無、体位について確認する</p>
	(略)	

経鼻経管栄養 演習手順マニュアル

実施手順	評価項目	評価の視点
(略)		
STEP 4 (実施)	9	<p>経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する (チューブのねじれ・折れ、固定が外れていないか確認)</p> <p><u>・胃ろう又は腸ろうから出ている経管栄養チューブにねじれ・折れがないか、チューブの接続状況、固定が外れていないかを確認する</u> (演習)「挿入部の皮膚の状態、呼吸・腹部の状態問題ありません、チューブのねじれ・折れありません、接続ができました」と声出し確認する</p>
	(略)	
STEP 5 (報告)	18	<p>体位交換が必要な対象者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する</p> <p><u>・観察をして異常がなければ、体位交換が必要な対象者に対しては、体位変換を再開する</u> (演習)対象者に吐き気の有無、体位について確認する</p>
	(略)	

経鼻経管栄養 演習手順マニュアル

実施手順	評価項目	評価の視点
(略)		
STEP 5 (実施)	9	<p>経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する (チューブのねじれ・折れ、固定が外れていないか確認)</p> <p>・経管栄養チューブを接続し、ねじれたり折れたりしていないか確認する ・固定が外れていないかを再度確認する (演習)「チューブのねじれ・折れありません、接続ができました」と声出し確認する</p>
	(略)	
STEP 6 (報告)	18	<p>体位交換が必要な対象者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する</p> <p>・体位交換が必要な対象者に対しては、異常がなければ体位変換を再開する (演習)対象者に吐き気の有無、体位について確認する</p>
	(略)	